

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270400967		
法人名	有限会社 楽舎		
事業所名	認知症高齢者グループホーム宇賀の杜楽舎(西ユニット)		
所在地	島根県出雲市奥宇賀町23番地1		
自己評価作成日	平成30年6月24日	評価結果市町村受理日	平成30年8月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ワイエム		
所在地	島根県出雲市今市町650		
訪問調査日	平成30年7月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度の西舎の年間目標は、「やるけんね テーブルゲーム 勝つけんね」と俳句で表し、誰もが行えるテーブル上で出来るゲームを職員が考え、練習し、勝負する取り組みを行っている。身体機能の維持、競う事での闘争心、周りとの関わりにおけるコミュニケーション、やり遂げる事での充実感、達成感。入居者様の潜在能力、残存機能に驚きながら、スタッフも刺激をもらいながら支援している。入居者様各々の、出来る・出来ないの見極めをしっかりと行いながら、理念の一つである「一瞬の笑顔を求めて」日々の生活、一瞬を楽しんでもらう事を目指して取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平田の自然の環境の中、木のぬくもりと清潔な空間のホームがある。13年というグループホームの経験と蓄積。しかしそこに留まる事はなく、いつも次なる目標をもって次に進んでいる姿勢を感じる。年間計画、月間計画の中にもそれぞれの利用者の方の尊厳を大切に、「一瞬の笑顔を求めて」の理念をいつも意識してスタッフが一同に進んでいる。また特に食事については、口から食べる食べる喜びを最後まで感じて頂くという支援方針のもとスタッフが創意工夫を凝らしてその季節ごとの食事を利用者の方と共に調理し、一緒に食する姿はとても感動的だった。地域の学校、保育園、ボランティアの方と一緒に生活する姿も自然に生まれてきたものと感じる。大切な事は継続していき、その次を追求し続ける当ホームは良いなあと感じる場所であった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、毎朝唱和している。さらに毎月の理念・ユニット目標も定め、実践している。	理念は張り出されており、毎朝唱和されている。毎年、毎月、ユニット別でそれぞれの目標も決めて、スタッフもいつも意識して行っているというスタッフの言葉が印象的だった。1年の振り返りも行い表彰も行ったっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の学校や園の行事へ参加している。、また、ボランティアさんや、生徒さんに楽舎へも足を運んで頂き、交流・活動の場として関わりを持っている。	小学校、保育園の訪問発表。中学生の福祉体験。地域ボランティアの訪問など活発に行われており、利用者さんからも笑顔がでる。小学校の卒業式にも、可能な方は一緒に参加もしているという。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	平田福祉フェスティバルへ参加。取り組みの発表。中学生の体験学習受け入れ。ボランティアさんの活動・成果の発表に場となっており、相互理解の場がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	楽舎での実践内容や現状の報告している。そして、参加者やご家族から、意見や要望を聞き、支援へつなげている。時には、行事参加してもらい、参加型で行っている。	年の初めに話す課題を決めて活発な意見の交換も行われている。取組みの報告、災害対策等も話し合わせ、それをスタッフと共に共有してサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて意見交換やアドバイスをもらっている。質問・疑問に関しては、電話や訪問して意見をもらっている。	運営推進会議で意見交換、アドバイスは行われており、わからない事もすぐに電話等で相談できる体制がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「鍵をかけないケア」を実行している。リスクと生活水準を考えながら「その人にとって」の最良を考え、取り組んでいる。	安全確保のために工夫して取り組んでいる。取組み後も家族さんとも情報共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内供研修を行い、正しい取り組みや声掛けを周知、確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修・内部研修にて、制度理解と内容把握に努めている。分からない事に関しては、話題に出して確認、勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面会時、文書での連絡、電話での対応など、都度お知らせと説明報告を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご様子を伺い、意見・要望を運営や支援に反映させている。また、毎月の手紙でご様子を報告をして、現状を知って頂いている。	いつも問いかけていくように努力している。毎月家族には報告を行っており、面会時には積極的に話を伺えるよう努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日時間を設けており、意見交換をしている。(10時/16時)	それぞれスタッフの得意な所(事務仕事、安全管理、レクリエーションなど)を活かし、担当制にして業務にあたっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年恒例の「年頭の決意」を各々が掲げ、風通しの良い関係性を構築しており、年齢・役職関係なく、意見交換や相談が出来る環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の呼びかけ、参加の促し。また、内部研修を毎月実施し、講師も持ち回りで全スタッフがやっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修やグループホーム協議会でのコミュニケーションや意見交換により、良い取り組みについては取り入れる努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時点でお話しを前ケアマネジャー・病院等から話を聞き、入所前に実際に会いに行き、ご本人の気持ち現状把握と信頼関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの時点でくわしくお話しを聞き、相談に乗り、ご家族様の不安などの解決に努めている。又、当事業所の想いを伝え、今後安心して入居できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様から得た情報をもとに、前ケアマネジャー、主治医と連携をとり、可能なサービス内容の助言、提案している。個々に合った支援が出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など出来る事や入居者様の経験、知識を活かし、活躍の場を作るよう努めている。そして教えてもらいながら信頼関係にも努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙、面会時にて日頃の様子をお伝えしている。年1回のありがとう会というご家族様とお食事会を行い、家族愛・絆を大切に頂き、共に支えられる環境に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の方や元同僚の方など、いつでも面会に来て頂ける環境作り、その空間も楽しんで頂けるよう努めている。	訪問者は多い。家族との外出も多いし、利用者の方が近所の方が多く、馴染みの方と繋がりも絶えないでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の性格や関係を把握し、仲の良い人同士隣にセッティングしてさし上げたり、状況に合わせた対応をしている。又共同生活の場でお互いが褒め、支え合えるような支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス(契約)が終了後も必要に応じて本人、ご家族様との関係性を大切にしながら、経過、フォロー、相談支援に努めている。退所時アルバムお渡ししたり、面会にも行かせてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の入居者様の表情や、会話の中で入居者様が何をしたいのか、何を求めておられるのかを充分時間をかけて思いを汲み取っている。	利用者の方の得意な事をしてもらうように努めている。切紙の時も切る人、渡す人、貼る人、周りで話す人など役割分担して作業をし、楽しんでもらえるよう気を配っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族様から生活歴、過去歴の情報をお聞きしている。これを元に入居者様との会話により、新しい情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時、1日の様子を報告し、スタッフ間で情報、現状を共有把握している。ご家族様にも毎月お手紙にて現状報告をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	年頭に入居者様の目標、願い、夢などをお聞きし、それをケアプランに反映している。3ヶ月ごとのモニタリングし、ご家族様の希望・要望もお聞きし、変化に応じて変更するなど現状に合ったケアプランを作成している。	年頭に入居者の方の目標、願い、夢などを聞いてケアプランに反映している。変化や現状にあわせてのケアプランをご家族の意見も聞いて作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテに毎日の記録があり、様子やケアプランの評価が出来るようにしてある。日々の変化も検討会議録等を使い、ケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診時の付き添いは、基本ご家族様にお願いしているが、都合がつかない場合はヘルパーを紹介したり、スタッフが付き添う事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節毎銀行へ作品を出展し、個々の力を発揮して頂けるよう、心がけている。又、近隣の小学校、保育園など地域との交流も積極的に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続、24時間の受け入れ体制にある受診も、ご家族様の都合と意志を尊重し、支援している。	かかりつけ医は継続し、グループホーム内の状況を必ず伝えるように情報提供を行っている。24時間連絡体制も行っている。基本ご家族対応しているが、困難な方はヘルパーを利用してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の関わりで違和感、バイタル等に異常があれば、看護師やかかりつけ医へつなぎ、指示を受けてながら支援や看護に取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時のカンファレンスはもちろん、医療機関との情報共有も徹底している。それによりご本人様・ご家族様に安心して治療を受けられる体制づくりをしている。又入院中スタッフが足を運び情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化と同時に説明を行っている。ご本人様、ご家族様の意向を汲み取り、かかりつけ医と事業所内において提案できる最良の支援方法を話し合い、説明、提供に努めている。	状況変化ごとの説明を行い、ご本人、ご家族の意向を汲み取り、かかりつけ医や事業所ができる最善の体制作りを行っている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全入居者様のカルテに119シートが備えてあり、病歴・バイタル異常値等常に確認できる。又緊急時に備えてマニュアルを設定している。年に1回は必ず、AEDの使用方も含む救急対応の研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練を年に2回、水害、土砂災害訓練を行っている。又、地域との連絡体制も連絡網の中に組み込んであり、緊急時はお願い出来る体制をとっている。避難誘導アセスメント表をのつく所へ掲示し、全スタッフが入居者様の身体状況を常に把握している。	今年の大雨による増水にも、早めの対応を行った。コミュニティセンターへの確認、スタッフ間での確認など、防災への意識は高い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフの言葉かけの研修を行い、日々寄り添ったケアを行っている。プライバシーを守る為ホール対応の方へ必要時パテーションを使用している。	スタッフの声掛けには研修も行き、日々利用者に寄り沿っている。入浴もいつも入れる体制を作っており、ご本人の尊厳を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物時食事作り時、食べたいものなどお聞きし、希望を取り入れている。嫌いな食材がある方には別メニューをお出ししている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の思いを尊重し、またその日の体調に合わせて対応を行っている。テーブルを囲んでレクを行ったり、希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月業者を招いて散髪・カラー・顔そり等入居者様の希望にそって理容の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせて食材を選び、入居者様と一緒にバイキングパーティーを行ったり、食事の盛り付けを一緒に行っている。	季節ごとのイベントも多く食事を楽しく行っている。メニューはスタッフが考え、ご利用者の方もそれぞれできる事を参加しながら行っている。食事の場面は明るく、一緒にスタッフも参加。温かい食事風景だった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定も把握しながら1人の体調を見ながら各々に合わせた水分量・食事量を摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。誤嚥性肺炎の予防を含めて、臭いが生じないように、また一人で出来づらい方は必ず介助し、出来る方でもしっかり磨いて頂く様声掛け、見守り、確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況や動作の把握をして、声掛け誘導や付き添いを行っている。	スタッフの声掛けは研修も行い、日々利用者に寄り沿っている。ご本人の尊厳を大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	しっかり水分を毎食・午前・午後と摂取して頂き、また冷たい牛乳を飲んで頂いたりして腸の動きを良くするため体操を行ったり、腹部マッサージを取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その時の体調や状況を見てお声掛けしている。希望されるタイミングがあればその時に対応している。季節を感じて頂ける様、しょうぶ湯、ゆず湯など用意している。	いつでも入浴できるようにその時々々のタイミングをみて行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠の為、寝る前にホットミルクや希望によりお茶等飲んで頂いている。入眠しやすいように夜間等の光の調節等行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援の時は必ず日付・名前・いつ服用か声を出して確認している。薬の変更や目的、副作用は薬事確認や申し送りにて共有、把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の関わりから、得意な事苦手な事を把握し、個々に合わせて洗濯物等日常を取り入れた支援や、貼り絵・カレンダー作り等作品作りにて気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じてもらい、ドライブに行ったり花見にいたり楽しんで頂いている。地域の行事・展示会にも参加している。	季節の時々を感じてもらうように外出を行っている。地域の行事や展示会にも参加を行っている。家族との外出も多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かっているお金の中で欲しいものを買ってお渡ししたり、つど自宅へ外泊され財布持参されている方は確認の上所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があればいつでも対応が出来るようにしている。毎月ご家族様には様子を伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁飾りを皆さんで制作して展示し、季節を感じて頂いている。又廊下のベンチでやソファでゆったりと過ごされている。	壁飾りを皆で作っており、壁に季節ごとの壁飾りを展示している。その他にも書道や作品が飾られ、季節の花がおかれている。又臭いが全くなく、トイレの掃除も1日に4~5回行っておりそれが当たり前となっている。清潔な環境に対しての家族の満足度も高い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人1人の居室で休まれたり、廊下ベンチに座って談話されたりと思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ家で使用されている小物をそのまま使用して、同じような環境作りをして安心して過ごして頂いている。	部屋はその人の歴史があり、思い出の品々が置かれている。自分の部屋に帰ってきたという雰囲気をもてるそれぞれの居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器を使用されている方のトイレの出入り口をスロープに改良したり、入居者様の目線の高さに合わせて張り紙をしている。		